

かしわぎ



Vol. **62**
2021/12

東京医科大学病院

総合相談・支援センターだより



タイトル〈かしわぎ〉とは

都電が走っていた頃は、通称「かしわぎ病院」と呼ばれ、
地域住民の皆さんに親しまれていたことから、
タイトルに「かしわぎ」と名付けました。

Contents

- ・ 新病院長、新センター長挨拶
- ・ 予約診療センター（メディカーサ）
- ・ 泌尿器科
- ・ 脳神経内科

MESSAGE ご挨拶



病院長

山本 謙吾

YAMAMOTO Kengo

2021年9月1日付で病院長に就任いたしました。先生方におかれましては、日頃より多大なご支援を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

当院は厚生労働省が承認する特定機能病院であり、がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターなど、重要な診療機能を集約しております。安心・安全で高度な医療を提供し、さらに新しい医療を創造し発展をさせていくことが使命であると考えております。「着眼大局、着手小局」(『荀子』)すなわち達成すべき目標の全体像を捉えたのち、面前に広がる課題、問題をひとつひとつ懸命に克服していく日々の積み重ねを大切に、実行してまいりたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会・経済に甚大な影響を及ぼしております。このような状況下において、多くの医療施設の皆様が大変なご苦勞をされていることと拝察いたします。当院におきましても、多くの患者さんを受け入れさせていただいてまいりましたが、今後ご紹介いただいた大切な患者さんに対して、感染防止に万全の対策を講じながら、安心・安全な医療を提供させていただきます。

なお、副院長には池田徳彦(手術室運営・働き方改革担当)、糸井隆夫(診療担当)、菅野義彦(医療安全・危機管理担当)、清田朝子(多職種連携担当)、及び病院長特別補佐には石川孝(医療、企業連携担当)、渡邊秀裕(感染対策担当)が就任いたしましたので、併せてご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



総合相談・支援センター／
予約診療センター(メディカーサ)
センター長

石川 孝

ISHIKAWA Takashi

この度、2021年9月1日付にて総合相談・支援センター長を拝命いたしました。平素より東京医科大学病院の医療連携に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新病院が開院して2年余りが経過しました。手術部門や高機能病棟を増強して、急性期医療に特化した特定機能病院の役割を担うと共に、患者さんへゆったりとした療養環境を提供できるようになりました。

長期にわたる新型コロナウイルス感染症においては、度重なる緊急事態宣言が発出される中、当院でも徹底した感染予防『2021 WITH コロナ～感染しない・感染させない』を重点施策の一つとして掲げて、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として職員一丸となってこの難局に対峙しています。おかげさまで現在までのところ、当院では特に大きな感染事例を出すこともなく、通常の診療を継続することができています。

今後も医療連携を深めて、患者さんや地域の先生方から選んでいただける病院をこれまで以上に目指してまいります。先生方をはじめ関係者の皆様には一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

予約診療センター(メディカーサ)



診療開始時間と診療枠をお約束します

大学病院は、診察までに1時間以上待つのが当たり前という話を耳にすることがあります。メディカーサでは、最初にお電話にて、ご希望の日時と医師をご予約いただくことが出来、診療当日にお待たせすることはありません。初診は40分、再診は20分と十分な診療時間の枠を設けることができ、患者さんにとって納得いただける診察が受けられます。また、検査、薬のお渡し、ご説明や会計までメディカーサ内の専用ブースにて済ませることができますので、院内の滞在時間を大幅に短縮できます。万が一、ご予約の時間から30分以上お待たせした場合は、予約料はいただきません。

予約料は、初診(40分)16,500円(税込)

再診(20分)11,000円(税込)です。



プライバシーに配慮した空間を提供します

メディカーサは、病院の3階に外来のスペースと別に設けられており、どの診療科医師の診察を受けているかを他人に知られることはありません。待合室も、プライバシーに配慮した空間になっており、専任のコンシェルジュが患者さんお一人おひとりに対応いたします。



予約・受付・料金

- ・お電話にてご予約いただけます。
- ・診療時間は(原則9:00~16:00)、初診は40分、再診は20分です。
- ・選定療養費として診療費とは別途下記の予約料がかかります。
初診(40分)16,500円(税込) 再診(20分)11,000円(税込)
- ・診療は原則として保険診療で行いますが、ご希望により自由診療も可能です。
- ・メディカーサにてお支払いいただけます。

予約診療センター(メディカーサ)の
お問い合わせ先

TEL 03-5339-3780 (直通)

受付時間 平 日 9:00~16:00
土曜日 9:00~12:00
(第1・3・5)

泌尿器科

Urology

大野 芳正 OHNO Yoshio

泌尿器科学分野 主任教授
(泌尿器科 診療科長)



信念:患者さんのQOLを十分に考慮し、 より低侵襲で最善の治療を提供すること

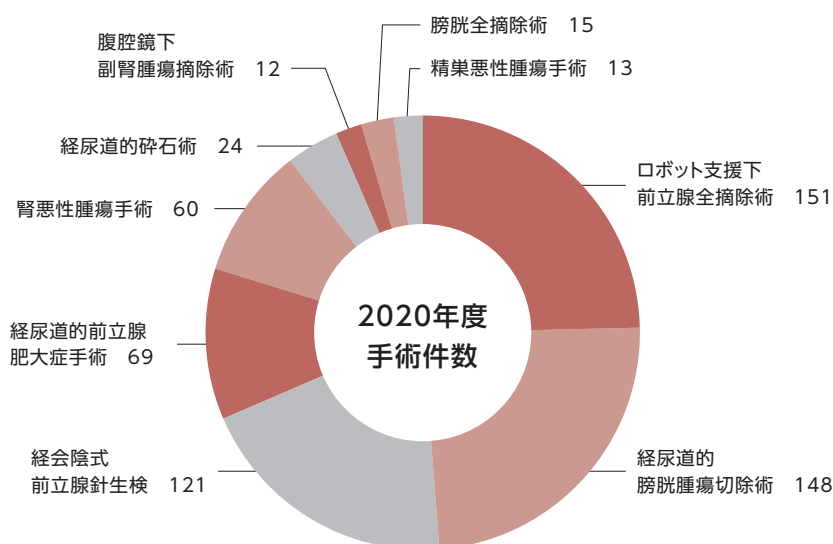
泌尿器科では前立腺肥大症や尿路結石症などの良性疾患から、前立腺がんや腎がん、膀胱がんなどの悪性疾患まで診療にあたっています。治療方法は薬物治療、外科治療、放射線治療などさまざまですが、それぞれの患者さんのQOLを十分に考慮し、より低侵襲で最善の治療を提供いたします。

ロボット支援下手術

ロボット支援下手術は現在さまざまな領域で低侵襲治療として普及してきています。

当科では2006年に国内で初めて前立腺がんに対するロボット支援下前立腺摘除術を導入し、国内トップレベルの手術実績を収めています。腎がんに対してもロボット支援下腎部分切除術が2016年から保険適応となり、当科でも小径の腎がんに対してロボット支援下腎部分切除術(2020年度:25例)を行っております。さらに浸潤性膀胱がんに対する膀胱全摘に関しても、2018年よりロボット支援下手術が保険適応となり、ロボット支援下膀胱全摘除術(2020年度:15例)を開始しております。





その他良性疾患に対する治療

悪性疾患のほかにも、前立腺肥大症や尿路結石に対する治療も積極的に行っています。前立腺肥大症に対しては、経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）を行っております。また、尿路結石に対しては、経尿道的尿管結石除去術を行うなど、レーザーを中心とした治療を行っております。

先進医療

PSAが高い値を認め、MRI画像検査にて前立腺がんが疑われる場合には、当院では先進医療としてより正確な診断が可能であるMRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法を行っています。

浸潤性膀胱がんに対する膀胱全摘除術および尿路変更術

当科ではより低侵襲かつ患者さんのQOLの保持を目指しており、ロボット支援下膀胱全摘除術を導入しております。また、尿路変更術は自然排尿型代用膀胱を積極的に挿入しており、患者さんのQOL保持に努めております。

患者さんのご紹介について

医療連携担当にお電話いただき、予約をお取りください。

TEL 03-5339-3808（医療連携担当直通）

平日 8:30～16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30～11:40

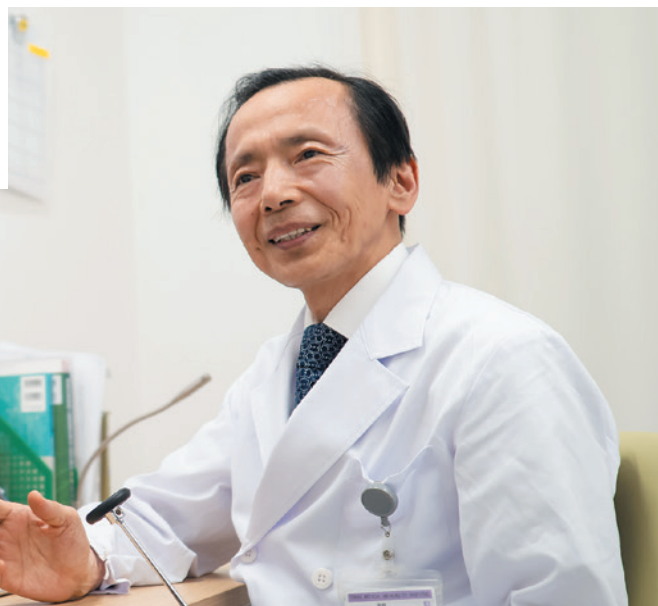
氏名	職名	初診外来診療日
大野 芳正	主任教授	月 AM 木 AM
並木 一典	教授	火 AM 金 AM
穴戸 俊英	講師	月 AM 水 AM
朝倉 博孝	兼任講師	土(第1) AM
佐竹 直哉	講師	月 AM 木 AM
橋本 剛	講師	水 AM 金 AM
平澤 陽介	助教	火 AM 土(第1・3・5) AM
石田 卓也	助教	火 AM 金 AM 土(第1・3・5) AM
長尾 剛	助教	木 AM
滝澤 一晴	兼任助教	木 AM
小野 朝	助教	月 AM 土(第1・3・5) AM
三間 隆史	兼任助教	水 AM

脳神経内科

Neurology

相澤 仁志 AIZAWA Hitoshi

神経学分野 主任教授
(脳神経内科 診療科長)



コモンディーズから 神経救急疾患、神経難病まで

脳神経内科では、頭痛やてんかん、認知症などの有病率の高い疾患から、脳梗塞をはじめとした脳血管障害や脳炎などの神経救急疾患、パーキンソン病およびその類縁疾患・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、重症筋無力症や多発性硬化症などの神経免疫疾患など、幅広い疾患について診療しております。

近年、頭痛やてんかんのみならず、神経難病に対しても新しい治療薬が多数開発されております。このような先進的な知見も日常診療に積極的に取り入れ、患者さんの日常生活動作(ADL)の向上、生活の質(QOL)の向上、さらにはご家族など患者さんの周囲の方々の負担が軽減するように努めております。また、新薬の開発に協力するため、複数の疾患において臨床治験も実施しております。

神経疾患の診断・治療において、微力ながらお役に立ちたいと日々努力し研鑽を積んでおりますので、神経疾患が疑われたら、いつでもご紹介くださいますようお願い申し上げます。

神経心理士による神経心理検査

当科では神経心理士が詳細な神経心理検査を実施し、治療方針の決定や患者さんの生活指導などに役立てています。脳に疾患がある場合、どうしても人が人たる所以の脳の機能に障害が生じてしまいます。この脳の機能を評価するのが神経心理検査です。神経心理検査には、全般性認知機能をみる検査や、ものごとを順序だてて行うための遂行機能をみる検査、集中力や注意力をみる注意機能検査などが含まれます。さらには、うつ状態を調べたり、心の快活さの程度を調べたりします。対象となる方は、脳病変を有するすべての患者さんです。なかでも、脳血管障害、パーキンソン病、多発性硬化症、認知症の患者さんなどを対象に行っています。

神経変性疾患の非運動症状へのサポート

パーキンソン病およびその類縁疾患、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患は、その疾患特性上、体動困難や歩行障害などの運動症状に焦点が当てられて、研究や治療の開発が進んできました。ところが、これらの疾患では、運動症状とは別に「非運動症状」といわれる精神症状・気分障害・遂行機能障害・注意障害などを伴うことがわかり、運動症状と相まって患者さんのQOLを低下させています。20年来、神経心理検査を行ってきたノウハウを生かし、個々の患者さんの非運動症状を詳細に検討して、患者さんのQOL向上に役立てています。

片頭痛やてんかんの新薬

近年、片頭痛の治療がダイナミックに変化しています。その中心となるのは、片頭痛発作時に上昇することがわかっているカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)を標的としたCGRP関連新規片頭痛治療薬です。今年、複数のCGRP関連新規片頭痛治療薬が発売され、既存薬では十分な効果が得られなかった患者さんにも有効性を実感していただいております。なお、このCGRP関連新規片頭痛治療薬については、厚生労働省から最適使用推進ガイドラインが示され、頭痛診療に精通する医師が処方する必要があります。

一方、てんかん診療については、既存の抗てんかん薬と比して発作抑制や副作用出現の面で有利な新規抗てんかん薬が処方できるようになってから本邦でも10年が過ぎました。その間にも新たな抗てんかん薬が次々と登場し、患者さんの発作や生活背景など、さまざまな要素を考慮して使い分けております。

このように頭痛やてんかんといった有病率が多い疾患に対して、適切な患者さんにタイムリーに薬剤を届けるよう心がけています。

神経免疫疾患の治療の進歩

当科では、約200例の重症筋無力症患者さん、約120例の多発性硬化症およびその類縁疾患の患者さんを診療しております。これらの疾患の有病率は人口10万人あたり10～20人と希ですが、近年このような希少疾患である神経免疫疾患でも多くの分子標的薬が臨床現場に登場するようになりました。以前の治療では、繰り返し再発し、みるみるADLが低下していった症例でも、適切な治療薬を導入することにより、極めて高い確率で再発を抑えられるようになりました。今後も新たな薬剤が次々に使用できる予定であり、治療進歩の展開に期待が寄せられている領域です。また、神経免疫疾患は若年女性の患者さんが多いことから、結婚、妊娠、出産、子育て、就労といったライフイベントを妨げることなく、患者さんのQOLに配慮した治療を心がけています。

神経疾患を患う 一人ひとりの 患者さんのために

神経疾患には10歳代・20歳代で発症するものも珍しくなく、その後の人生すべてを疾患とともに過ごさなくてはならない患者さんも多くいらっしゃいます。そのため、疾患のみを診ていては患者さんのQOLの向上には繋がらない、全人的診療を心がけなくてはならない、とスタッフ一同、肝に銘じて診療にあたっております。神経難病を患いながらも在宅療養される患者さんも多くいらっしゃいますが、そのような方々については、地域の先生方のお力添えをいただきながら緊密に連携をとり、疾患の安定化だけでなく、患者さんのQOL維持・向上を目指して診療にあたっております。

患者さんのご紹介について

医療連携担当にお電話いただき、予約をお取りください。

TEL 03-5339-3808 (医療連携担当直通)

平日 8:30～16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30～11:40

氏 名	職 名	専門分野	初診外来診療日
相 澤 仁 志	主任教授	神経疾患全般、神経変性疾患、脳卒中、頭痛	月 AM 木 AM
赫 寛 雄	准 教 授	神経疾患全般、パーキンソン病、脳卒中	水 AM 金 AM
加 藤 陽 久	講 師	神経疾患全般、認知機能障害、脳卒中、てんかん	木 PM 土(第1・3・5) AM
日出山拓人	講 師	神経疾患全般、神経変性疾患	月 AM 木 AM
田 口 丈 士	院内講師	神経疾患全般、小脳失調症	金(第1・3) PM
井 戸 信 博	助 教	神経疾患全般、多発性硬化症	火 AM 水 PM
菊 野 宗 明	助 教	神経疾患全般、脳卒中	火 PM
内藤万希子	臨床助教	神経疾患全般	金 AM
金 丸 晃 大	助 教	神経疾患全般、脳卒中	水 AM
増 田 眞 之	臨床研究医	神経疾患全般、重症筋無力症	月 PM 火 AM
井 上 文	助 教	神経疾患全般、脳卒中	土(第1・3・5) AM

〈専門外来〉重症筋無力症、パーキンソン病、多発性硬化症・視神経脊髄炎、認知機能、脊髄小脳変性症、神経変性疾患、頭痛、てんかん

▶ 安心して患者さんをご紹介いただくために

当院では新型コロナウイルスに対し、万全な感染対策を徹底しています。
地域医療機関の皆さま方におかれましては安心して患者さんをご紹介ください。

詳しくはホームページをご確認ください。

<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/raiin/other/covid-19.html>



▶ 医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)について

東京医科大学病院では、地域の医療機関を対象に医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)を実施しています。地域包括ケアシステムの視点に立ち、地域医療をバックアップするとともに、地域医療機関のパートナーとして、医療機関と地域住民との信頼関係の向上を図ります。



医療連携医としてご登録いただいた医療機関は、MAPに表示させていただきます



電話にてお問い合わせいただければ、
申込書一式をお送りいたします。

TEL 03-5339-3808(直通)

<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/>

医療関係の方へ ▶ 医療連携医登録制度
(メディカルパートナーズ)

